

霧ヶ峰エコツーリズム構築部会報告

KiNOA 合同会社 霧ヶ峰自然教室

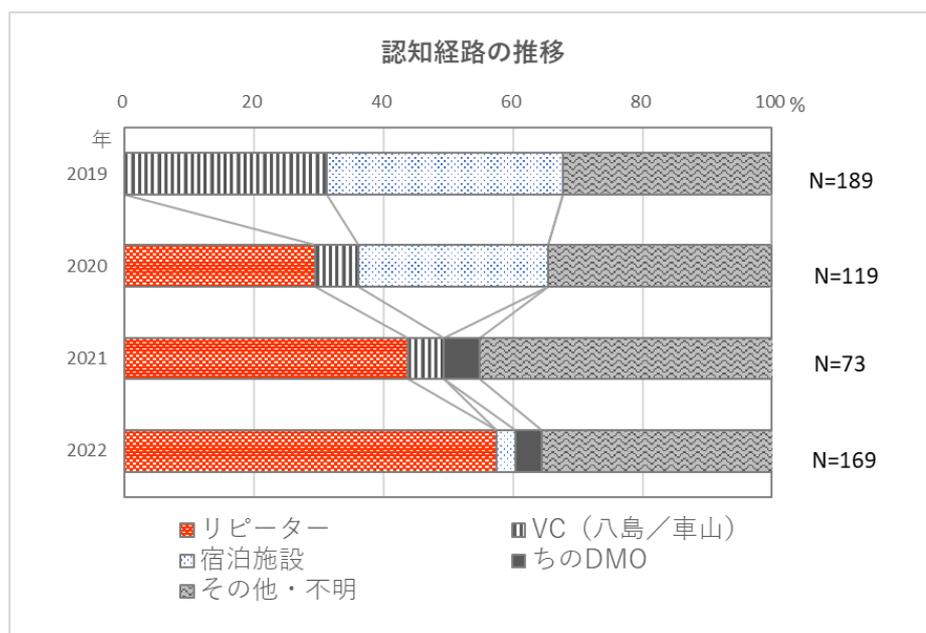
代表 田口 信

IP 事業部長 山川次彦

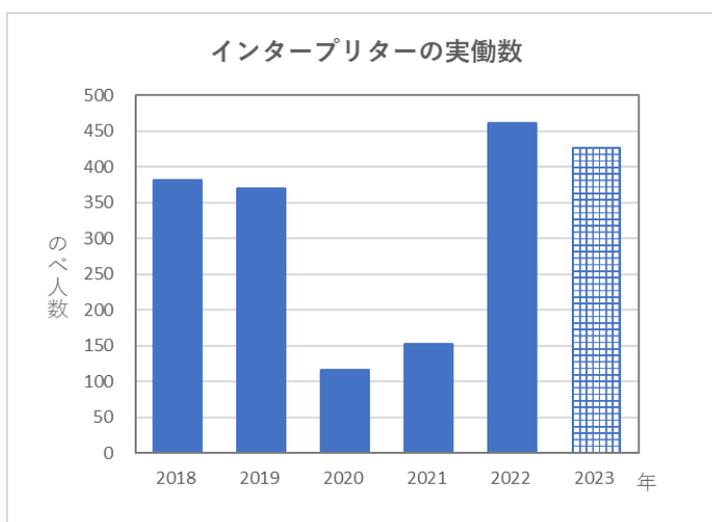
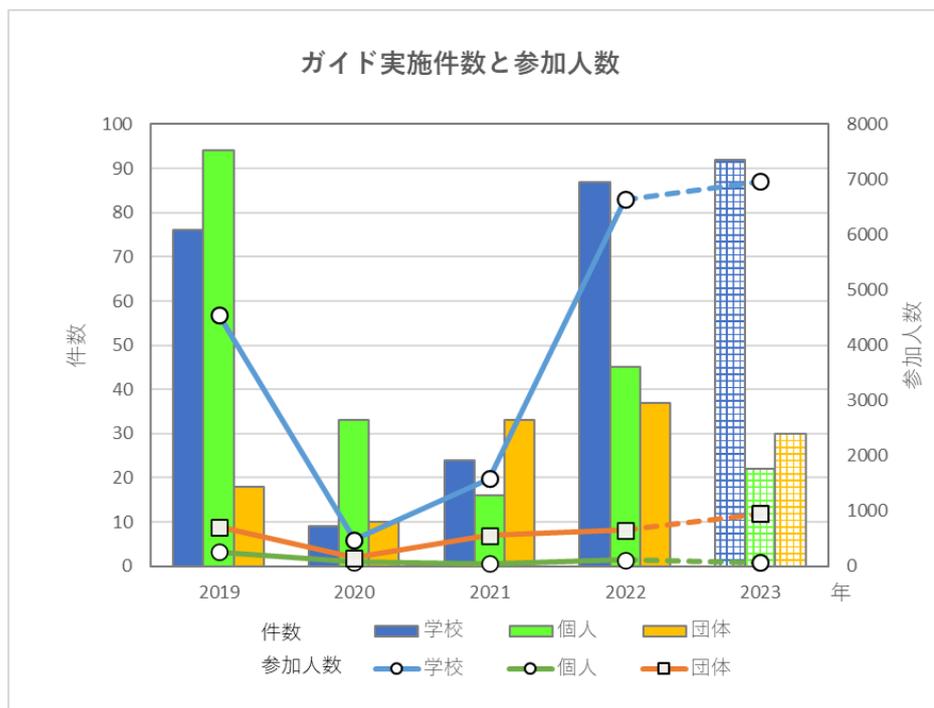
霧ヶ峰エコツーリズム構築部会は、2007年の霧ヶ峰自然環境保全協議会（以下みらい協議会）発足以来、「草原」「湿原」「樹叢」の保全再生部会、「彩り草原空間」形成・施設整備部会と共に活動してまいりました。

2009年からは、現在も続いている「霧ヶ峰インタープリター養成講座」を霧ヶ峰ビジターセンター連絡会と共に実施し、参加者は昨年度までの14年間で延べ180名を数えるようになりました。3日間の養成講座を修了した方々は、3回の研修と3回のアシスタントを経て、霧ヶ峰インタープリターとして活躍していただいております。

霧ヶ峰のエコツーリズムは、みらい協議会の提言である「霧ヶ峰インタープリテーション指針」を具現化することによって、霧ヶ峰のエコツーリズムならではの付加価値のある旅を提供しております。具体的には、霧ヶ峰ならではの非日常的な空間だけが与えてくれる、安らぎや安心感を生かしたエコツーリズムの展開です。自然や歴史の知識だけではなく霧ヶ峰の自然のエネルギーを体感していただくことによって、満ち足りた気持ちになり、日常生活のエネルギーを得られるような旅を提供しております〔資料1〕。このことは他地域との差別化を図るとともに、霧ヶ峰を再訪したいという願望を芽生えさせることによって、リピーターの獲得にも効果的に作用しています。



近年は新型コロナウイルスの影響によって著しくガイド依頼件数が減少しましたが、2022年からはコロナ以前の数値に回復してきております。これに伴いインタープリターの実働数も増加しており、2022年はコロナ前の延べ人数382名を上回る462名のインタープリターが活動しております。



今後もガイド依頼が増加するものと思われまますので、霧ヶ峰インタープリテーション指針に則った高品質で心の通う霧ヶ峰インタープリテーションを実践し、100年後においても豊かな自然環境が保全され、大勢の観光客が訪れる憧れの観光地として、霧ヶ峰が存続することを願いつつ活動してまいります。

〔添付資料〕

1. 霧ヶ峰のエコツーリズムが全国において占めるべき位置及び対象客
2. 霧ヶ峰インタープリターの養成等に係る実施体制について